

心理的安全性と成果を両立させる全体最適の プロジェクトマネジメントの研究 (クラス1) ー心理的安全性と関連性の高い プロジェクトの成功要因と手法の探求ー アブストラクト

1. 研究の背景

グローバル化やコロナ禍など、「予測不能な世界」へと変化している中、プロジェクトの成果を生み出す組織の特徴として、メンバー間の信頼関係を表す状態、「心理的安全性」が注目されている。当分科会では参加企業における心理的安全性とプロジェクト運営の実態から、日本での心理的安全性とプロジェクト成果の関連性を導き出すこととする。

2. 研究アプローチ

成功を収めたプロジェクトにおいて、心理的安全性を高めるアクションが取られていた場合があると想定した仮説探求型の研究を行う。特定したアクションについて、従来のプロジェクトマネジメント手法との相違点を見出し、心理的安全性と成果を両立させ、「予測不能な世界」へ対応するための、全体最適のプロジェクトマネジメントを実施する上での課題を発見し、今後の方向性を提示する。

3. 研究内容

プロジェクト成果を導くための活動と心理的安全性の関連性を特定するため、アンケートおよびヒアリングによる調査を行った。その結果、プロジェクトマネジメントにおける心理的安全性として要素化し、実現するためのアクションの例が確認できた。

- ・相互リーダーシップと相互支援
- ・未来志向のコミュニケーション
- ・ファクトベース思考

3つの要素は、プロジェクト成果などのベースとなるものの、マインドセットとして位置づいていると判断した。さらに、既存のプロジェクトマネジメント手法や全体最適性との関連を考察した結果、図1のようなイメージになると判断した。この関係が維持されることで、正の好循環スパイラルが発生し、さらなる効果が見込まれると考える。

4. 評価

本研究を通して、以下3点が明らかとなった。

- ・プロジェクトマネジメントにおける心理的安全性を3つのマインドセットとして定義
- ・既存プロジェクトマネジメント手法(PMBOK/CCPM)と心理的安全性の関係性(相互に補完しあい、好循環を生む関係)
- ・プロジェクトマネジメントにおける3つのマインドセットを実現するためのアクションの例

心理的安全性を確保しつつ、成果も両立させる全体最適のプロジェクトマネジメント手法の探求に向けた道筋を作ることができたが確立には至っていない。また、今回明らかにしたマインドセットは、当分科会参加企業内のプロジェクトのみを対象に導きだしたものであり、他社・他業種に対しての追加検証が必要と考える。それらについて次年度以降の研究で、手法や評価方法を見出すことを期待する。

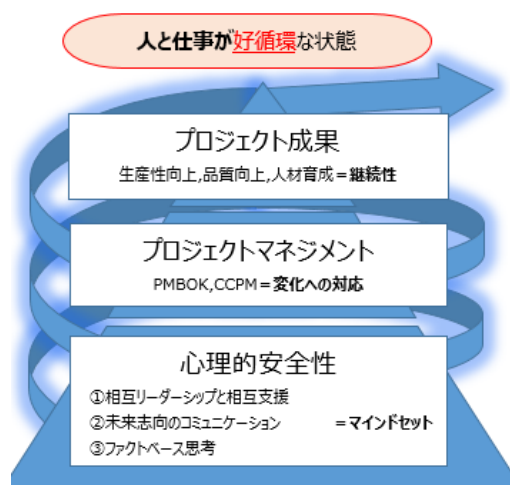


図 1. 人と仕事为好循環になるためのフレームワーク